

西光寺だより

第一〇五号 令和元年 五月一日発行

汗ばむ陽気になり季節の変化を感じることであります。

新元号が『令和』に決まりました。西光寺だよりも今月号より令和の文字が刻まれます。令和の時代も、皆様どうぞよろしくお願い致します。

元号といえば、800年前の『建保』（1213〜18）の提案者は親鸞聖人の伯父・日野宗業（ひの むねなり）と言われています。建保元年、聖人41歳。越後から関西の地へと移り、関東で20年間、すべての人々を仏としてお浄土に生まれさせて救いたいという阿弥陀さまのはたらきを伝える布教活動と、主著「教行信証」の執筆にすぎ込まれ、800年後の現代までお念仏のみ教えが伝えられたと思うと、時代の流れとご縁の深さを感じることであります。

これまでの元号は中国の古典から出典されてきましたが、新元号は初めて日本の古典から出典されました。その由来は、万葉集の「梅花の歌」の言葉で、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」との思いが込められているとのことです。安倍総理大臣による『令和』には、希望に満ちあふれた新しい時代を切り開いていく、若い世代が活躍できる時代であってほしい、若者がそれぞれの花を咲かせることのできる日本をつくりたい、との願いが込められていると話されました。

それぞれの時代に歴史があり、ひとつの時代もかけることなく続いたからこそ今がある。私たちのいのちのつながりと同じであります。どんな時代もどんないのちも、それぞれの花をそれぞれの色で、思う存分咲かせられる時代であってほしいと思うことであります。

あと余談ではありますが、西暦と年号の換算は面倒であります。令和の場合は、西暦の下2桁から18を引けば令和の年になります。18は「018（れいわ）」と語呂合わせをすれば覚えやすいとのことでもあります。たとえば西暦2020年の場合は18を引けば令和2年となります。逆に令和2年は、18に2を足し20で、西暦2020年になります。

昭和の場合は、西暦の下2桁から25を引いた値が昭和になります。反対

に昭和に25を足すと西暦の下2桁になります。平成の場合は、西暦に12を足した下2桁が平成になり、反対に平成から12を引いた値に2000を足すと西暦になります。

西暦と年号、いつもややこしくなりがちですが、参考にしていただけたらと思います。 合掌

◆先月の報告◆

①四月六日（土）西光寺本堂にて春季永代経法要・追弔会法要を厳修致しました。午後1時30分からの追弔会では、昨年度西光寺講員の四名のお仲間がお浄土へご往生され、そのことを皆様で偲ばせて頂き、阿弥陀経のお勤めの中、お焼香させていただきました。

引き続き春季永代経法要をお勤めし、多くの方々と西光寺で永代にみ教えが伝わるようにと、ご縁をいただきました。ありがとうございました。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

そして布教使の宮部先生のお話を皆様と聴聞させていただきました。ご縁をいただくたびに楽しく分かりやすいお話に感謝するばかりであります。

この度のお話の内容でふれていただいた「生前」という言葉について、来られなかった方々にもお伝えしたく、西光寺だよりで少し載せさせていただきますと思います。

よくお葬式などで使われる言葉、「生前は皆様に大変お世話になりました」というように使われる「生前」、生まれる前の「生前」ではなく、死ぬ前の「死前」と言うなら分かる話であります。「死前は皆様に大変お世話になりました」というように。

けれど生まれる前と書いて「生前」、では生まれる前とはどういう意味でしょう。それは「お浄土に生まれる前」ということであるとお話されました。お浄土に生まれる前のこの今の世界では大変お世話になりましたということでもあります。

往生の生であります。「往きて生まれる」、阿弥陀さまの「必ず救うわれにまかせよ」のおこころをそのまま受け入れ、おまかせする心を得たものは、必ずお浄土へ行き生まれさせていただきます、これが浄土真宗の往生であります。この短い言葉に浄土真宗のみ教えがこめられています。

「死んだらどうなるのか」、いずれ誰もが問わねばならない時がきます。その時、「死ぬのではなく、お浄土へ生まれてゆくのだ」という阿弥陀さまのお言葉を私の答えにさせていただきます。お浄土へ生まれさせていただきますと頂いて、お念仏申す人生を歩ませていただきたいとお話を聞かせていただいたことでもあります。

私たちが何気に使っている言葉の中に、ちゃんと阿弥陀さまのお心・浄土真宗のみ教えがあったのだと味わえた時間がありました。

『仏説阿弥陀経』に「俱会一処」という言葉があります。「俱に一処で会う」と書かれてあります。一処とはお浄土であります。お浄土で再び会わせていただく。娑婆世界は別れてゆかねばならない世界です。死んでゆかねばならない世界です。それに対して、お浄土はあえる世界であります。生まれゆく世界であります。南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

②四月二十日（土）西光寺本堂にて西光寺役員会を致しました。新たに役員になられた方々、今まで通りお役を続けていただく方々、皆様がおられるおかげで西光寺のさまざまな行事を行うことができます。今年一年どうぞ皆様よろしくお願い致します。

◆五・六月の行事◆

・五月 十一日（日）

西光寺講 総会

午後七時

西光寺本堂